

彙報

平成二十九年密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

【研究会】

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

九月三十日

鈴木晋伶

「伝統の創造―真言密教の実践的展開における教学の位置づけ―」

岡田英作

「瑜伽行派における種姓説の展開」

十月十四日

北川真寛

「五仏心王について―論義書を中心に―」

土居夏樹

「理法身説法」について

十一月十八日

黒木賢一

「ユングにおける東洋―精・氣・神、そして自己―」

十一月二十五日

淵田雲溪

「南山進流における流伝について」

十二月二日

大柴清圓

「大名草彦命高野明神説―丹生氏の『外戚』の初祖として―」

一月十三日

蒲池和憲

「資料紹介―伝授類聚鈔（并に雑攷）」

趙 新玲

「諸阿闍梨真言密教部類總録」の成立について」

一月二十七日

八木高秀

「清瀧智龍「高祖の医療観」〔高祖の聖影〕六六新報社」と背景」

室寺義仁

「人を愛する」観方について―「大悲」の教えに立つて観る―」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から『秘蔵宝鑑』をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表するもの。

※会員

松長有慶、乾仁志、大柴清圓、加納和雄、川崎一洋、

北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、武内孝善、

トーマス・ドライトライン、土居夏樹、中原慈良、

那須真裕美、藤田光寛、松長恵史、南昌宏、米田弘仁

※活動実績

『秘蔵宝鑑』の研究会を原則として月二回行った。

（日程）（担当箇所）（担当者）

四月十四日 第四住心

松長恵史

四月二十七日

松長恵史

五月十二日

松長恵史

五月十九日

櫻木潤

六月九日

櫻木潤

六月二十三日

櫻木潤

七月二十一日

櫻木潤

七月二十八日	〃	乾 仁志
十月六日	第五住心	トーマス・ドライトライン
十月二十七日	〃	トーマス・ドライトライン
十一月十日	〃	トーマス・ドライトライン
十一月二十四日	〃	トーマス・ドライトライン
	第六住心	加納和雄、土居夏樹
十二月八日	〃	加納和雄、土居夏樹
十二月十五日	〃	加納和雄、土居夏樹
一月十二日	第七住心	那須真裕美
一月二十六日	〃	那須真裕美
二月九日	〃	那須真裕美

○南山教学研究会（詳細は研究員報告を参照）

※趣旨

高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資すること、密教興隆を図る。

※参加者

土居夏樹、北川真寛、平賀由美子、高柳健太郎、小田龍哉（以上、輪読会発表担当者）
 藤田光寛、南 昌宏、中原慈良、蒲池和憲、中西雄泰、
 楠 博州、亀位卓阿、高井知弘、高岡隆真、内海周浩、
 赤堀暢泰、安田弘明、鈴木晋雄
 その他、大学院生・大学生など

※活動実績

輪読会

（日程）	（内容）	（担当者）
五月二十六日	「四仏会座」	北川真寛
六月三十日	「遍計所執捨不捨義」	土居夏樹

七月三十一日	〃	土居夏樹
十一月二十四日	〃	土居夏樹
十二月二十二日	「無尽莊嚴藏」	高柳健太郎
一月二十七日	〃	小田龍哉
三月二十三日	「初地即極」	平賀由美子

研究発表

七月八日 （於 密教研究会学術大会）

土居夏樹 「遍計所執捨不捨」について」

十月十四日 （於 密教文化研究所研究会）

北川真寛 「五仏心王について―論義書を中心に―」

土居夏樹 「理法身說法について」

宗学連携事業

・ 勸学会の二日廻し期間中に、高野山の学道の歴史と「三密双修」についての講義を実施。

・ 『大日経疏』第一本下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成。

・ 問講の謂立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた宗・釈論題の再治・増補

ほか

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関して

は高野山山内住職と共同で活動。活動内容の詳細は「平成二十八年度南山教学研究会 活動報告」（本書一二頁）を参照願いたい。

○南山進流声明研究会（詳細は研究員報告を参照）

※趣旨

南山進流の実修および歴史・文化をはじめとする教学的裏付け・位置づけを学び、後世に伝承するもの。

※能化

宮田永明（高野山総持院上綱・南山進流声明相承者）

※会員

瀧田雲溪、青木倫裕、五十嵐啓道、落合玄光、川上隆輝、

北川真寛、小紫光慈、佐伯英雄、竹前魁晃、富田向真、

仲田篤史、藤田尚樹、安田弘明、米澤紀幸

※活動実績

研究会（原則として毎週火曜日に開）

四月十九日、四月二十六日、五月十七日、五月二十四日、六月七日、七月五日、七月十二日、七月十九日、七月二十六日、九月十三日、十月十二日、十月十八日、十月二十五日、十一月十五日、十二月十二日、十二月十六日、平成二十九年一月二十四日
伝授、講義の曲目は次のとおり。

『声明類聚』

「三礼」・「如来唄」・「云何唄」・「出家唄」・「梵音」・「錫杖」・「散華」・「対揚」・「五悔」・「九方便」・「理趣経」・「四智梵語」・「心略梵語」・「不動梵語」・「四智漢語」・「心略看護」・「仏讃」・「吉慶梵語」・「吉慶漢語」・「阿弥陀讃」・「四波羅蜜」・「東方讃」・「南方讃」・「西方讃」・「北方讃」

『法則』

「祭文」

研究発表

十一月二十五日（於 密教文化研究所研究会）

瀧田雲溪 「南山進流における流伝について―現行の南山進流の系譜における覚証院様と東南院様の正傍―」

※本事業に関しては、主に瀧田雲溪が担当。活動内容の詳細は「平成二十八年度南山進流声明研究会 活動報告」（本書二二三頁）を参照願いたい。

○中世密教聖教研究会

※趣旨

日本中世の密教に関係する聖教の研究を目的とする。高野山大学図書館に収蔵さ

れる聖教を中心に、重要な学術的意義を持つ未翻刻の聖教を紹介し、日本中世における密教の歴史的位置を把握することをめざす。本年度は、院政期の心覚が撰述した『別尊要記（鶴林抄）』第四帖を翻刻・輪読した。

※会員

坂口太郎、上野勝之、高橋秀城、高橋悠介、橋本正俊、花川真子、藤本孝一、船田淳一

※活動実績

九月一日（木）～二日（金）

高野山大学図書館にて、常喜院心覚撰述書などを調査。また、坂口が作成した『別尊要記』第四帖（底本は、高野山金剛三昧院本）の翻刻をもとに輪読。十二月九日（金）～十二月十日（土）

高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。

平成二十九年三月三日（金）三月五日（日）

高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。

※本事業に関しては、主に坂口太郎が担当。活動内容の詳細は「平成二十八年度中世密教聖教研究会 活動報告」（本書二二三頁）を参照願いたい。

○プロジェクト「宗教と科学の対話」

宗教と科学が有する今日的意義について、科学者と宗教学者が、研究と実証実験の二部門に分かれて議論・検証を重ねてきた。

研究部門（「宗教と科学の対話」研究会）

※趣旨

宗教学、分子生物学、物理学、医学等、各学問領域における最先端の研究成果を持ち寄り、宗教と科学が有する今日的意義について議論をする研究会。

※会員

棚次正和、鮎澤聡、奥健夫、中村本然、中村泰治、生井智紹、室寺義仁、森勇介

※オブザーバー

村上和雄

※活動実績

研究会

七月二十四日

高岡義寛 「水クラスターの魅力と謎」

刊行物

これまでの研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として、平成二十九年三月に発行。

実証部門（いのちと遺伝子）研究会

※趣旨

祈りや願想が遺伝子にもたらす変化の研究。「護摩行が身心に及ぼす影響の作用機序と分子基盤の解明」を目的とした科学臨床データの収集。

※会員

村上和雄、鮎澤 聡、大西淳之、堀 美代、坂本成子、大西英理子、笹岡知子、松村益子、棚次正和、中村本然

※活動実績

刊行物

研究部門（前述）と共に、これまでの研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として、平成二十九年三月に発行。

○巡礼遍路研究会（協賛事業）

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

会 長…山陰加春夫（靈宝館副館長）
事務局長…柴谷宗叔（密教文化研究所研究員）

※会員数

二百二十八名（十二月三十一日時点）

※活動実績

第三回研究発表会開催

日 時 平成二十八年六月十八日（土）

於…総本山善通寺遍閣

記念講演

檀原禅澄（総本山善通寺法主）「生きることを学ぶ」

研究発表

加藤俊生「衛門三郎信仰の考察―三教指帰・現代遍路との関連―」

村上昭彦「写し霊場巡礼者の研究―その展望と課題―」

東近 伸「土佐清水市市野瀬・真念庵調査と今後の課題」

【講演会】

○二十一世紀高野山医療フォーラム

※趣旨

仏教が自ら掲げる「広く人間に与えられた苦痛、苦悩からの解放」という基本的な使命の一つとして、医療の中で果たすべき宗教の役割が浮かび上がり、医療関係者とも協力しながら、医学と宗教が共に手を携えて医療の領域で人々の幸福に寄与しようとするような実践のあり方を模索し、社会に対して何らかの提言を行うことを目指す。

※会員

中西啓實（名誉会長）、柳田邦男（理事長）、山折哲雄（副理事長）、池口恵観（理事）他 理事十五名

※開催実績

講演会・シンポジウム開催

日 時 五月十四日（土） 十二時～十八時半

会 場 東京ビッグサイト 国際会議場（会議棟七階）

内 容

基調講演

高木神元（高野山大学名誉教授）

「科学技術文明における死生観」

柳田邦男（作家・21世紀高野山医療フォーラム理事長）

「21世紀高野山医療フォーラム10年の総括―生と死の知を拓く―」

講演

柏木哲夫（淀川キリスト教病院理事長）

「死の臨床40年の歩みとスピリチュアルケアの課題」

山折哲雄（宗教学者）

「ポスト高野山医療フォーラムの課題」

特別講演

島蘭進（上智大学グリーンフケア研究所長）

「死生学の進展から宗教者の役割を問う」

田坂広志（多摩大学大学院教授）

「『死生観』を掴む―秘められた能力が開花するとき―」

講演

永田良一（新日本科学社長）

「企業人と宗教心」

シンポジウム

テーマ

「高野山医療フォーラム10年を踏まえて、

医療と宗教のあり方について提言したいこと」

司会

柳田邦男、山折哲雄

シンポジスト

垣添忠生、静 慈圓、南條輝志男、南野知恵子、

南 裕子

○高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

※趣旨

株式会社フジキン会長 小川洋史氏より、故 小川修平氏のご遺志として遺贈された寄付金をもとに、「高野山大学フジキン小川修平記念講座」を開設。「宗教と科

学の対話」をテーマとして、宇宙や生命、環境やころなどの事象に、科学の視点を織り交ぜながら、光をあてていく。現代社会の抱える問題に真言密教はどのように応えることができるのかという社会的期待に応えるとともに、本講座を通して参加者に、現代の諸問題を考える上での一つの道標を示すことを目指す。

※開催実績

講演会開催（宇宙の摂理への想い―科学と宗教の視点から―）

平成二十八年年度第一回

日時 十月一日（土） 十三時半～十七時十分

会場 グランフロント大阪北館B2階ナレッジキャピタルコングレコンベ

ンションセンター ホールC

講演

中村修二（カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授・2014年度ノー

ベル物理学賞受賞）

「イノベーション―日米環境の違い―」

鮎澤 聡（筑波技術大学保健科学部准教授）

「『祈り』は遺伝子をうごかすか？」

松長有慶（高野山大学名誉教授、高野山金剛峯寺前座主・高野山真言宗前

管長）

「密教観法と祈り」

平成二十八年年度第二回

日時 十一月五日（土） 十三時半～十六時

会場 大阪市立中央公会堂

講演

鈴木真二（東京大学大学院教授）

「大空への夢―ドローンから国産旅客機MRJまで―」

高木伸元（高野山大学名誉教授）

「空海の宇宙論パラダイムと現代科学技術文明―乾坤は経籍の箱なり―」

研究員活動報告

平成二十八年年度研究活動報告

専任研究員 大柴清圓

【研究活動概況】

研究者は弘法大師に関する総合的な研究活動を行うことを志している。本年度は以下の三点を中心に研究した。

- 一、弘法大師の著作に関係する研究…(一) 興福寺南円堂『銅燈臺銘』の撰者が伝承通り弘法大師であることを、音韻論・文章論・文字学を基に論じた。(二)『秘蔵宝鑑』巻上の校訂本を提出した。殊に冒頭十三句には二字の誤写があることを指摘した。
- 二、弘法大師の請来本に関係する研究…(一)『梵字并びに雑文を献する表』(『性霊集』巻第四所収)の「梁武帝草書評一卷」の伝本と考えられる沈黎書『梁武帝草書状』(京都府所蔵)を紹介した。(二)弘法大師請来の『梵字法身偈一卷』について、先行研究は所在不明としていたが、複数の写本が伝存していることを報告した。(三)『菩提心論』の難読箇所である「扶会阿字者指楚」が入智印を説いていることを論じた。(四)『菩提心論』冒頭の「大広智阿闍梨云」の一段落が、不空三蔵の直弟子によって付加された序文に相当することを論じた。
- 三、明神に関係する研究…田殿丹生神社の由来書を足掛かりに、大名草彦命が高野明神であることを論じた。

【研究発表】

- ・『梵字并びに雑文を献する表』(『性霊集』巻第四)における「梁武帝草書評一卷」について 付 京都国立博物館所蔵・沈黎書『梁武帝草書状』(影印本) (平成二十八年年度密教研究会學術大会、平成二十八年七月八日、高野山大学)
- ・『菩提心論』における「扶会阿字者指楚」について (日本印度学仏教学会第六十七回學術大会、平成二十八年九月三日、東京大学)
- ・興福寺南円堂『銅燈臺銘』の弘法大師御作説 (日本密教学会第四十九回回學術大会、平成二十八年十月二十八日、高野山金剛峯寺)

- ・「大名草彦命高野明神説―丹生氏の外戚の初祖として―」(平成二十八年年度高野山大学密教文化研究所研究会、平成二十八年十二月二日、高野山大学)

【論文】

- ・『梵字并びに雑文を献する表』(『性霊集』巻第四)における「梁武帝草書評一卷」について 付 京都国立博物館所蔵・沈黎書『梁武帝草書状』(影印本)『密教文化』第二百三十七号
- ・『菩提心論』における「扶会阿字者指楚」について『印度学仏教学研究』第六十五巻
- ・『秘蔵宝鑑』巻上の校訂研究『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊
- ・興福寺南円堂『銅燈臺銘』の弘法大師御作説『密教学研究』第四十九号
- ・興福寺南円堂『銅燈臺銘』の翻刻・譯注『密教学会会報』第五十四号
- ・弘法大師請来の『梵字法身偈一卷』について―東寺講堂御仏所被籠』の法身偈―『空海研究』第四号
- ・「大名草彦命高野明神説―丹生氏の外戚の初祖として―」『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十号
- ・『菩提心論』冒頭の一段落の序文説―「大廣智阿闍梨云」との関連で―『高野山大学大学院紀要』第十六号

【研究所研究会】

- ・第二回(平成二十八年十月十四日)、第三回(同年十一月十八日)、第四回(同年十一月二十五日)、第五回(同年十二月二日)。

【他の研究会等への参加】

- ・弘法大師著作研究会 第四・五・六・七住心の科文テキストを作成。

平成二十八年年度 南山教学研究会活動報告

委託研究員 北川真寛

〔研究活動概況〕

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資すること、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究所員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させ、平成二十八年度は、次のような活動を実施している。

① 論義書の輪読会

② 論義に関する調査・研究による研究発表と学術雑誌への投稿

③ 高野山勸学会への協力

i 勸学会における講義の実施・聴聞

ii 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

④ 山内論義で用いられる論義資料の調査と再治・増補

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後さらさらにこれらの活動を進めていく。

参加者…土居夏樹 兼任研究所員・高野山大学助教

北川真寛 委託研究員（事務局）

平賀由美子 受託研究員

高柳健太郎 高野山大学大学院生

小田龍哉 同志社大学大学院生

（以上、輪読会発表担当者）

藤田光寛 高野山大学学長

南 昌宏 高野山大学教授

中原慈良 委託研究員

蒲池和憲 受託研究員

中西雄泰 高野山引根院

楠 博州 高野山龍泉院

亀位卓阿 高野山随心院

近藤亮寛 高野山櫻池院

高井知弘 高野山菩提心院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院

赤堀暢泰 高野山徳蔵院

安田弘明 高野山親王院

鈴木晋雄 智山伝法院常勤研究員

その他、大学院生・大学生など

〔輪読会の開催〕

・五月二十六日（木） 十五時～十六時三〇分

北川真寛 「四仏会座」

・六月三十日（木） 十五時～十六時三〇分

・七月二十一日（木） 十三時二〇分～十四時五〇分

・十一月二十四日（木） 十三時二〇分～十四時五〇分

土居夏樹 「遍計所執捨不捨義」

・十二月二十二日（木） 十五時～十六時三〇分

・一月二十七日（金） 十五時～十六時三〇分

小田龍哉・高柳健太郎 「無尽莊嚴蔵」

〔研究発表〕

・七月八日（金） 密教研究会学術大会

土居夏樹 「遍計所執捨不捨」について」

・十月十四日（金） 密教文化研究所研究会

北川真寛 「五仏心王について——論義書を中心に——」

『高野山大学密教文化研究所紀要』三〇掲載

・十月十四日（金）密教文化研究所研究会

土居夏樹 「理法身說法について」

（『高野山大学大学院紀要』一六掲載予定）

【宗学連携事業】

・勸学会の二日廻し期間中に、高野山の学道の歴史と「三密双修」についての講義を実施。

・『大日経疏』第二本下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを勸学会・二臓と協力して校訂し、勸学会実修に使用。

・問講の謂立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた宗・釈論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実に資する資料の作成を目指し、高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、前年度に引き続いて資料の追加調査と収集、論義の活字入力、論題の解説作成を実施。来年度にこれらの成果をまとめて、出版予定。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

平成二十八年度南山進流声明研究会活動報告

専任研究員 淵田雲溪

【研究活動趣旨】

本学密教学文化研究所では、昨年度より高野山総持院宮田永明上綱を大阿様として「声明研究会」を発足した。宮田上綱は親王院中川善教前官御房より、その正嫡として血脈を相承されておられる。

本研究会は、その血脈を何とか後世に繋がんがために発足することとなった。

【活動状況】

本年度は、研鑽を進めるうえで大阿様の指示のもと全体の受者を二組に分け、一組は奇数週の火曜日、二組は偶数週の火曜日として、それぞれ月2回の研究会を開催した。報告者自身も伝授を受けて研鑽に励んでいるのが、毎週行われる研究会において、大阿様との日程の調整や会所の設営等の運営を担当している。また同時に本学図書館等に残された貴重な資料などを用いて伝授における資料の作成などを試みており、それらを用いて声明における論理的解釈や歴史の変遷など学術的な研究も進めたいと考える。

*声明研究会

・毎月 奇数週の火曜日 午後一時半～三時半 第一組

偶数週の火曜日 午後一時半～三時半 第二組

・伝授、講義の曲目

『声明類聚』

「三礼」・「如来唄」・「云何唄」・「出家唄」・「梵音」・「錫杖」・「散華」・「対揚」・「五悔」・「九方便」・「理趣経」・「四智梵語」・「心略梵語」・「不動梵語」・「四智漢語」・「心略看護」・「仏讃」・「吉慶梵語」・「吉慶漢語」・「阿弥陀讃」・「四波羅蜜」・「東方讃」・「南方讃」・「西方讃」・「北方讃」

「法則」

「祭文」

*研究発表

・十一月二十五日 研究所発表

「南山進流における流伝について―現行の南山進流の系譜における覚証院様と東
南院様の正傍―」

・『密教文化研究所紀要』第三十号

「南山進流の系譜における覚証院様と東南院様の正傍について」

【活動総括】

声明の伝授は大きく分けて四段階とされ、「魚山（声明類聚）」・「法則」・「秘讃」・「大
阿闍梨」である。現段階は、その第一段階である「魚山」を終えようとするところで、
『声明類聚』の曲目が終われば、次の段階として「法則」伝授に移る。

また、南山進流の系譜における覚証院様と東南院様の正傍について考察した。中川
善教師によつて東南院様であると伝えられている現行の南山進流における血脈を如何
に扱うべきか、という疑問について、

・南山進流の血脈自体は覚証院様のものである

・血脈には「声明業血脈」と記されているのであるから、覚証院様とか東南院様な
どに固執するものではない

・両様自体、唱える声明の曲や博士に大差があるわけではない

・両様の口決はかなり入り乱れ、唱える人の「宜しきに随つて」両様の曲節を唱え
るに至った

以上の点から、南山進流は覚証院様を正当なる本流としながら、併せて傍らに東南
院様を相承してきたものと考えられ、現行の血脈をみると、両様を兼ね併せた「南
山進流 声明業」と見るべきであろう、との結論に至った。

今後の課題としては、両様の相伝の鍵となると思われる寛光のいわゆる新東南院様
の扱いについて更に考察を深めたいと考える。

平成二十八年度中世密教聖教研究会活動報告 研究所員 坂口 太郎

【研究会の趣旨】

本研究会は、日本中世の密教に関係する聖教の研究を目的とするものである。高野
山大学図書館に収蔵される聖教を中心に、重要な学術的意義を持つ未翻刻の聖教を紹
介し、日本中世における密教の歴史的位置を把握することをめざす。本年度は、院政
期の心覚が撰述した『別尊要記（鶴林鈔）』第四帖を翻刻・輪読した。

【研究会のメンバー（大学院生以上）】

坂口太郎（高野山大学文学部助教・密教文化研究所兼任研究所員・本研究会幹事）

上野勝之（奈良大学・非常勤講師）

高橋秀城（大正大学・二松學舎大学・大東文化大学非常勤講師）

高橋悠介（慶應義塾大学斯道文庫准教授）

橋本正俊（摂南大学外国語学部准教授）

花川真子（京都大学人間・環境学研究科博士後期課程）

藤本孝一（冷泉家時雨亭文庫調査主任）

船田淳一（金城学院大学文学部准教授・密教文化研究所受託研究員）

【平成二十八年度の活動】

第一回 九月一日（木）～二日（金）

高野山大学図書館にて、心覚撰述書などを調査。また、坂口が作成した『別
尊要記』第四帖（底本は、高野山金剛三昧院本）の翻刻をもとに輪読。

第二回 十二月九日（金）～十日（土）

高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。

第三回 平成二十九年三月三日（金）～五日（日）

高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。

【平成二十八年度の成果と課題】

本研究会で取り上げる『別尊要記』は、一九六〇年代に仏教美術史の真鍋俊照氏が

注目しているが、いまだ翻刻は存在せず、その学術的意義は十分に知られていない。そこで、本年度は『別尊要記』のうち、とくに重要な内容を持つ第四帖を選んで輪読を進めた。

『別尊要記』の内容は多岐にわたるが、同書は中世の真言密教の聖教に数多く引用されており、後代に多大な影響を与えていることが確認できた。例えば、東寺の寺誌として著名な『東宝記』では、東寺講堂の立体曼荼羅の記述の多くを『別尊要記』に依拠している。従来、立体曼荼羅の研究は、『東宝記』に基づくところが大きかったが、実際には『別尊要記』こそが、『東宝記』よりも重要な史料ということになる。

今後、『別尊要記』の伝本を幅広く調査するとともに、心党の事蹟や彼に関係する聖教群についても情報を収集し、研究会の活動に活かしていく。

密教文化研究所構成員名簿

(平成二十九年三月現在)

○所長

奥山直司(本学教授)

○研究所顧問

松長有慶(本学名誉教授)

○特別招聘顧問

村上和雄(筑波大学名誉教授)

○客員教授

鮎澤 聡(筑波技術大学准教授)

小川哲生(大阪大学教授)

高岡義寛(京都大学名誉教授)

棚次正和(京都府立医科大学名誉教授)

森 勇介(大阪大学大学院教授)

山崎泰廣(高野山真言宗碩学)

○委託研究員

川崎一洋(本学非常勤講師)

北川真寛(本学非常勤講師)

静 春樹(本学非常勤講師)

柴谷宗叔(巡礼遍路研究会事務局長)

鈴木晋恰(智山伝法院副院長)

武内孝善(本学名誉教授)

中原慈良(本学非常勤講師)

中村泰治(昭和大学名誉教授)

那須真裕美（種智院大学非常勤講師）

生井智紹（本学名誉教授）

根本泰行（株式会社アイ・エイチ・エム I H M総合研究所所長）

室寺義仁（滋賀医科大学教授）

森 雅秀（金沢大学教授）

米田弘仁（孝恩寺住職）

○専従研究員

奥山直司（所長兼務）

○兼任研究所員

坂口太郎（本学助教）

櫻木 潤（本学助教）

佐藤隆彦（本学教授）

土居夏樹（本学助教）

トーマス・ドライトライン（本学准教授）

松長恵史（本学准教授）

南 昌宏（本学教授）

森本一彦（本学准教授）

○専任研究員

大柴清圓（中国国立中山大学中国語言文学系古文字学専攻博士課程修了 博士〈文学〉）

淵田雲溪（本学非常勤講師）

○受託研究員

アロン・プロフィット

（ニューヨーク州立大学オールバニ校助教）

池田一城（高野町教育委員会文化財専門職員）

石部道明（本学大学院博士後期課程単位取得退学）

岡田英作（京都大学非常勤講師）

神田英昭（本学大学院博士後期課程単位取得退学）

蒲池和憲（随心院小野講伝所研究員）

黒木賢一（大阪経済大学教授）

趙 新玲（中国陝西師範大学宗教研究センター大学院修了）

辻村優英（神戸大学経済経営研究所ジュニアリサーチフェロー）

徳重弘志（本学大学院博士後期課程修了 博士〈密教学〉）

ドルジイ・ケルサン

（京都大学こころの未来研究センター教務補佐員）

中谷征充（本学大学院博士後期課程修了 博士〈密教学〉）

沼野直子（金華山天皇寺高照院代表役員）

野口博司（本学非常勤講師）

平賀由美子（本学大学院博士後期課程単位取得退学）

船田淳一（金城学院大学文学部准教授）

八木高秀（東雲八木診療所院長）

吉田 唯（近畿大学非常勤講師）

テンジン・ウセル（ダライ・ラマ法王庁派遣）

テンジン・ナムギャル※（ダライ・ラマ法王庁派遣）

※平成二十八年七月帰国

○研究所事務室

野田祐治

木下浩良

橋本亜子

木野村由季

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所(以下「研究所」という。)に、『密教文化研究所紀要』(以下「紀要」という。)編集委員会(以下「編集委員会」という。)を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 研究所長
- (2) 専従研究所員
- (3) 「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によつて議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

- (1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
- (2) 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』(以下「紀要」という。)は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 研究所長
- (2) 研究所員
- (3) 研究員
- (4) 編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則

この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介（掲載順）

北川 真寛 密教文化研究所委託研究員

中谷 征充 密教文化研究所受託研究員

潤田 雲溪 密教文化研究所専任研究員

乾 仁志 高野山大学教授

苔米地誠一 大正大学教授

小峯 和明 立教大学名誉教授

大柴 清圓 密教文化研究所専任研究員

※乾氏、苔米地氏、小峯氏の三氏の原稿は、日本印度学仏教学会第66回学術大会（平成二十七年9月20日開催・於 高野山大学）のパネル発表（「中世の密教儀礼と舍利信仰」）をもとにご寄稿いただいたもの。

編集後記

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十号をお届け致します。

四人の研究員による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

また、本号においては、平成二十七年九月二十日（日）に本学にて開催されました、日本印度学仏教学会第六十六回学術大会のパネル発表者にもご寄稿いただいておりますので、ぜひ一読ください。

○本年度は、研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、南山進流声明研究会、中世密教聖教研究会、プロジェクト「宗教と科学の対話」といった各種研究会が、活発に活動した一年となりました。その内、弘法大師著作研究会、プロジェクト「宗教と科学の対話」については、それぞれの研究成果を、『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、教学の継承と普及、発展に向けて、一歩前進した年とも位置づけております。

○更に、二十一世紀高野山医療フォーラムや、高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会を開催し、仏教・密教をはじめとする宗教と、最先端の医療や科学とが対話を重ね、複雑化する現代社会の諸問題の解決に向けて共に学び合う機会を提供できたことも、意義ある試みと受け止めております。

○平成二十七年は高野山開創千二百年、平成二十八年には高野山大学創立百三十年、それぞれの節目を迎えました。当研究所としましては、弘法大師の思想・密教の思想を初心に立ち返って学ぶと共に、研究成果を広く社会へ発信するべく、所長以下、研究員・研究所員・スタッフ一同、決意を新たにしております。今後も密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三〇号

平成二十九年三月二十一日 印刷

平成二十九年三月三十日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 奥山直司

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話〇七三〇五六―三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五十三

電話〇七三〇四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七